

氏名	青 山 興 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3080号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	小児膀胱尿管逆流現象の手術適応に関する検討 ークレアチニン・クリアランスと尿濃縮力を指標としてー
論文審査委員	教授 楨野 博史 教授 清野 佳紀 教授 工藤 尚文

学位論文内容の要旨

膀胱尿管逆流現象手術例 136例に対し、糸球体機能の指標としてのクレアチニン・クリアランス(Ccr)、遠位尿細管機能の指標としての尿濃縮力に検討を加えた。その結果、術前 Ccr正常・濃縮力正常例(76例)は1例が術後濃縮力が低下したが、75例は術後も Ccr・濃縮力ともに正常であった。また術前 Ccr正常・濃縮力異常群(27例)では術後は Ccrは全例正常であり、濃縮力は24例が正常に改善した(改善率: 24/27:89%)。Ccr異常・濃縮力異常群(17例)は術後値で Ccr正常・濃縮力正常は2例であり、Ccrは正常になったが、濃縮力は低下している症例が2例、Ccr・濃縮力ともに低下したままの症例が13例であった(改善率: 4/17:23.5%)。これらから、1) VURの手術適応の決定には Ccr、尿濃縮力を考慮に入れる必要がある。2) VURの患児で Ccr正常、濃縮力異常の場合は手術の絶対適応であり早期の手術が推奨されるとの結論を得た。

論文審査結果の要旨

本研究は膀胱尿管逆流現象(VUR)手術例136例に対し、糸球体機能の指標としてのクレアチニン・クリアランス(Ccr)、遠位尿細管機能の指標としての尿濃縮力に検討を加えたものである。その結果、術前Ccr正常・濃縮力正常例(76例)は1例が術後濃縮力が低下したが、75例は術後もCcr・濃縮力ともに正常であった。また術前Ccr正常・濃縮力が縮力異常群(27例)では術後はCcrは全例正常であり、濃縮力は24例が正常に改善した(改善率: 24/27:89%)。Ccr異常・濃縮力異常群(17例)は術後値でCcr正常・濃縮力正常では2例であり、Ccrは正常になったが、濃縮力は低下している症例が2例、Ccr・濃縮力ともに低下したままの症例が13例であった(改善率: 4/17:23.5%)。これらから、1)VURの手術適応の決定はCcr、尿濃縮力を考慮に入れる必要がある。。2)VURの患児でCcr正常、濃縮力異常の場合は手術の絶対適応であり早期の手術が推奨されるとの結論を得た。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。